



 **NCCJ** | 国立研究開発法人  
国立がん研究センター  
National Cancer Center Japan



 国立研究開発法人  
**国立精神・神経医療研究センター**  
National Center of Neurology and Psychiatry



 国立研究開発法人  
**国立成育医療研究センター**  
National Center for Child Health and Development



# ナショナルセンター医療研究連携推進本部 具体的な取り組み（令和6年度）



 **国立健康危機管理研究機構**  
Japan Institute for Health Security

 **国立循環器病研究センター**  
National Cerebral and Cardiovascular Center



 国立研究開発法人  
**国立長寿医療研究センター**  
National Center for Geriatrics and Gerontology



## 【中長期目標の内容】

NC間の連携による新たなイノベーションの創出を目的とし、NC間の横断領域における研究開発等に取り組むものとする。具体的には、ゲノム医療、大規模医療情報の活用等、NCがそれぞれの専門性を活かしつつ、相乗効果を発揮できる研究領域における研究開発等に取り組むものとする。人材育成については、特に研究支援人材を育成するための体制を構築し、我が国の有為な人材の育成拠点となるようモデル的な研修及び講習の実施に努めること。その他、NCの研究成果の発信やメディアセミナーの開催、知財の創出・管理の強化や企業との連携強化に取り組むものとする。また、JH内で適正なガバナンス体制を構築し、定期的に活動状況の評価を行うこと。

## 【国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部（JH）の概要】

### 1.組織

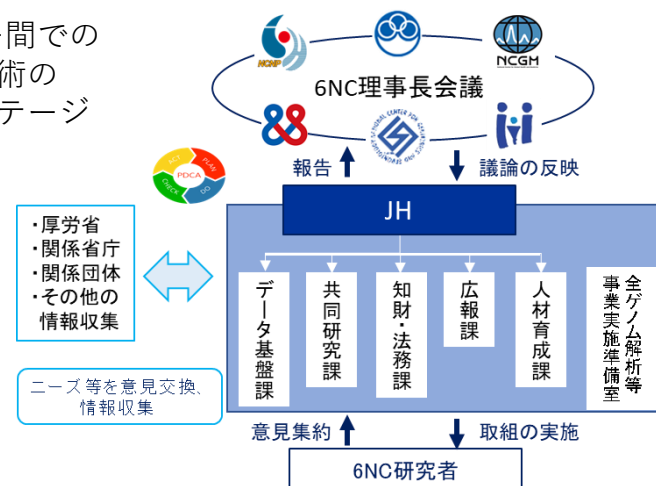
- 2020年4月、6 NCの内部組織として、国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部（Japan Health Research Promotion Bureau (JH)）を設置。
  - ・ 人員：6NC内部職員で構成。（2025.3月時点 併任38名）
  - ・ 設置場所：国立国際医療研究センター（現 国立健康危機管理研究機構）内

### 2.ミッション

- ① NCが世界最高水準の研究開発・医療を目指して新たなイノベーションを創出するために、6NCの資源・情報を集約し、それぞれの専門性を生かしつつ有機的・機能的連携を行うことにより、わが国全体の臨床研究力の向上に資することを目的とする。
- ② 社会ニーズと疾患構造の変化に対応しつつ、6NCの基礎・臨床・社会医学トップランナー間での有機的な連携を強化することにより、革新的な予防・診断・治療及び共生に関する医療技術の開発・実装を促進する。これにより、健康寿命の延伸をはかり、人々があらゆるライフステージにおいて幸福で活躍できる社会の実現に貢献する。

### 3.JH事業の進め方

- ① JH本部長は、6NC理事長が協議して策定した「JH事業計画」に基づき、最大限連携効果が得られるようJH事業を遂行。JH事業を機動的に実施できるようにするため、予算の配分・執行等の事業実施に係る権限および責任はJH本部長に集約。
- ② 6NC理事長は、随時、JH事業に関する意見・要望等を、JH本部長に伝えることはできるが、その意見・要望等の取扱いはJH本部長に一任。JH本部長は、6NC理事長からの意見・要望等や、その後の対応を記録し、6NC理事長に報告。



## 4. 2024年度の取組：JH事業計画に沿って以下の取組を行った。

### ① 新たなニーズに対応した研究開発機能を支援・強化

1. 電子化医療情報を活用した疾患横断的コホート研究情報基盤を整備し、中高年期（40歳～74歳）の各種飲料の摂取量と5年後のうつ病との関連を見出し、栄養学専門誌「Clinical Nutrition」に発表した。
2. 6ナショナルセンターの所掌疾患に関する患者数について、本邦における悉皆的なレセプトデータであるNDBを用いて推定し、ニトロサミン混入が報告された糖尿病薬（シタグリプチン）使用とがん発生の関連を調べ、有意な関連を認めなかった。
3. 令和3年度に構築した6NC統合電子カルテデータベース（6NC-EHRs）を、昨年度の82万人から92万人のデータ抽出に拡充し、本データを活用した医学研究8課題（2022年度採択5課題、2023年度採択2課題、2024年度採択1課題）を通して、研究推進支援を推進した。
4. 空間情報を保持した1細胞レベルの網羅的発現解析技術を、病理組織標本の解析に最適化して研究基盤とした6NCの共同研究体制を構築し、新たにコアラボ事業として、広く6NCからVISIUM-HDの受託解析を開始した。
5. 研究支援人材の育成に取り組むため、6NCが連携し実務を通じた人材育成を行う体制の支援を推進した。特に生物統計分野において「JH若手生物統計家NC連携育成パイロット事業」を通して1名の若手が実務・責任試験統計家認定資格の取得に向けて実績を積んだ。
6. 「6NC共通教育プラットフォーム」にて、疾患領域横断的な人材育成のため、各NCの教育・研修コンテンツの配信支援を継続した。

### ② 6NC連携で効果的な研究開発が期待される領域の取組を支援・強化

1. 横断的研究推進費課題14課題の進捗支援及び外部評価を実施し、研究開発を推進するとともに、R7年度開始課題を公募し、応募15課題から4課題を採択した。
2. 令和5年度及び令和6年度から実施しているNC連携若手グラント合計26課題の進捗管理及び中間評価を実施し、研究開発を推進した。令和7年度若手グラント研究助成の新規課題公募を行い、12課題を採択した。また、令和4年度および令和5年度から実施している横断的事業課題3課題の進捗管理を行い、内3年目となった2課題について外部評価を実施し、継続の可否を検討した。
3. 全ゲノム解析等事業実施準備室において、臨床・患者還元支援、解析・DC運営、利活用支援、IT・情報基盤・セキュリティ、ELSI、総務の6チームにより、R7年度の事業実施組織発足に向けた検討を継続した。

### ③ 6NC全体として研究成果の実臨床への展開を支援・強化

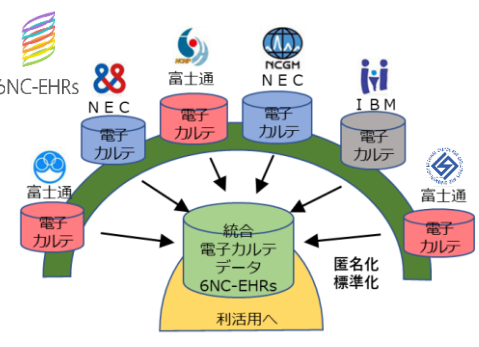
1. 知財・法務に関する相談に対応し、併せて研究成果有体物(MTA) に関する理解を促進する映像資材を提供することで、6NC間の情報共有と課題解決のための連携を推進した。
2. JHが支援する研究課題・概要等を英語版も含めJHホームページを充実、6NCリトリート2024にて約320人が現地参加する講演・ポスターセッションを開催、過去5年間の成果をJH業績集にまとめ、6NC内の研究者・医療者の交流やJHの情報発信を促進した。

# 2024年度の取組の具体的な成果（補足）

## ① 6NC電子カルテ統合データベースの構築を推進

- 2024年度は、6NC統合電子カルテデータベース（6NC - EHRs）の拡充を行った。
- 各NCの病名コード、医薬品コード、検査コードの標準化を実施するとともに、集積されたデータのクリーニングを実施した。
- 6NC-EHRsのデータを活用する研究の追加公募により新たに1つの課題を採択し、合計8課題の研究支援を実施した。

- （ポイント）
- 6NC-EHRsは、患者基本情報・病名・検査（結果を含む）・処方情報・入退院情報等が含まれた、医療ビッグデータベースであり、2024年度は82万人→92万人、4億5232万レコード→4億9618万レコードへ拡充を行った。
  - 異なるベンダーの電子カルテから収集したデータの標準化を実施し、その結果を各NCにフィードバックすることで、各NCの保有するデータの品質向上に貢献した。
  - 公募採択課題に対し、研究成果が最大となるよう、データ利用の技術的支援を行っている。
  - 6NC-EHRsの認知度向上、利活用促進を目的とし、データそのものではない集計情報等によりデータベースの全体像を確認できるサイト「6NC - EHRsショーケース」を構築した。



6NC-EHRsショーケース 画面例



## ② 6NC連携人材育成として、疾患横断的な教育・研修コンテンツを配信し、6NC連携事業で若手生物統計家を育成

- 6NC共通教育プラットフォームを構築し、疾患領域横断的な人材育成のため、各NCの教育・研修コンテンツの配信支援した。
- 6NC連携育成パイロット事業として、生物統計家育成に実績をもつNCが、他の5NCから希望のあった若手1名に対して、OJTを通じた育成を行うことを支援した。

- （ポイント）
- 6NC共通教育プラットフォームでは、6NCの有用な教育・研修コンテンツのオンデマンド配信を支援し、令和6年度までに171コンテンツをe-learning動画として配信し、視聴者数は23,192であった。
  - 6NCが連携した生物統計家人材育成として、2024年3月に実務試験統計家資格（※）を取得した若手1名が、さらに上位資格となる実務・責任試験統計家資格の取得に向け、生物統計家育成に実績をもつNCでのOJTを通じて実績を積んだ。
- （※ 日本計量生物学会が認定する資格であり、臨床研究中各病院の人員体制の要件において、具体例で取り上げられている資格）

### 配信中の171コンテンツの内訳

NCC	新倫理指針、臨床基礎研究	NCGM	臨床研究の品質管理、薬剤耐性、情報セキュリティ、業務効率化、リポミクスシリーズ、業務効率化
NCVC	循環器疾患、循環器病看護	NCCHD	小児医療、データサイエンス研修
NCNP	うつ病、臨床モニタリング、QMS/RBA	NCGG	認知症シリーズ、老年病講座、臨床モニタリング、基礎老化講座
6NC	動物実験の研究倫理（日・英）、知的財産セミナーシリーズ、6NCバイオバンクネットワーク		



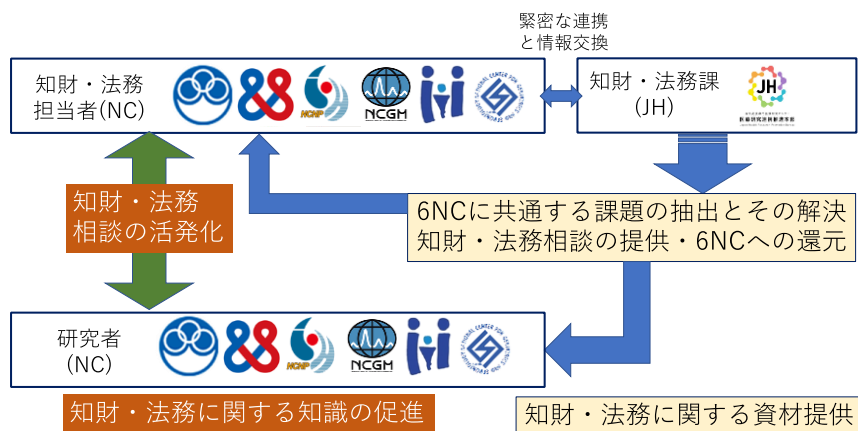
# 2024年度の取組の具体的な成果（補足）

## ⑤ 法務専門家の支援を得て相談・支援を提供するとともに知財・法務に関わる理解を促進する資材を提供

- 6 NCの知財・法務支援に関する情報共有と共通する課題を解決するため、定期的にカウンターパート会議を開催した。
- カウンターパート会議での意見交換を含む10件の知財・法務相談に対応した。
- 6 NCで連携し、研究成果有体物に関する映像資材を作成した。

（ポイント）

- 国際競争力に卓越した研究成果を創出し、国民に還元するためには、研究機関や民間企業との連携を促進することが必要。
- そのためには、共同研究契約、特許出願、著作権、得られた知的財産の帰属など、知財・法務に関する知識の獲得や専門部門における支援が肝要。
- 知財・法務相談への対応や動画コンテンツのICR-webへの配信等を通じ、知財・法務に関する知識・情報のブラッシュアップを行っている。



## ⑥ 全ゲノム解析等事業実施準備室において、R7年度での事業実施組織設立に向けた準備を推進

- 国が推進する「全ゲノム解析等実行計画2022」を踏まえ、R5年3月に全ゲノム解析等事業実施準備室がJH内に設置された。
- 準備室において、臨床・患者還元支援、解析・DC運営、利活用支援、IT・情報基盤・セキュリティ、ELSI、総務の6チームにより、R7年度の事業実施組織発足に向けた検討を継続した。

（ポイント）

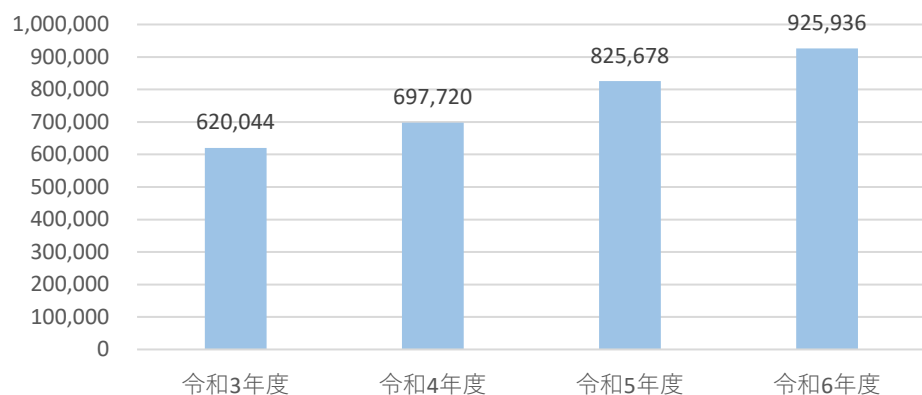
- 事業実施組織発足に向けて組織の体制構築や必要な人材確保の実務的な準備を進めた。
- 全ゲノム解析の臨床実装に向けた臨床試験等の準備、コンソーシアムによる実データ利活用の準備、データ・検体の移行の準備、システム開発計画・システム仕様の策定、ELSI上の課題対応等を進めた。

### 準備室の達成目標

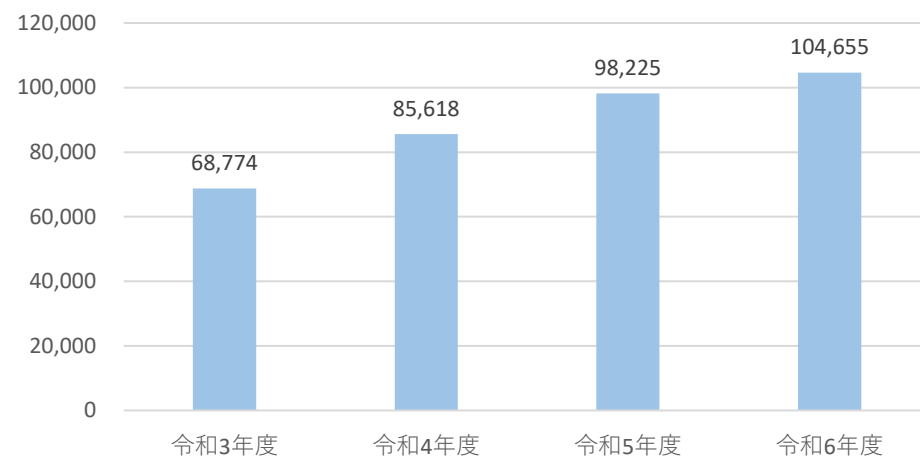
		事業実施準備室稼働			事業実施組織稼働	
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		<b>事業実施組織発足に向けた実務的な準備の実施</b>				<b>事業実施組織発足</b>
臨床・患者還元支援	<b>令和7年度の組織発足を目標とした グランドデザインをブラッシュアップ 事業実施準備室の設立及び グランドデザインをブラッシュアップ</b>	<b>A</b> がんの全ゲノム解析の臨床実装に向けた臨床試験等の準備、関係機関との調整開始 <b>B</b> 医療機関参加に伴う各種支援・手続き等の具体化、各種規程等の整備				
利活用支援		■ 実データ利活用を通じた利活用事業の整備、改善や課金体系の具体化 ■ 検体利活用等の実施に向けた課題の整理、ポリシー等の作成				
解析・DC運営		■ コンソーシアム（事業実施組織フェーズ）に向けた運営体制及び利活用促進事業等の具体化 ■ 実データ利活用を通じた、データ及びシステム等に対するアカデミア・産業界からのニーズ取り纏め				
IT・情報基盤・セキュリティ		■ 解析・DC運営部門の運営体制構築、規程、SOP、マニュアルの整備 ■ 移行計画に沿ったデータ・検体、（資産）の移行の準備				
ELSI		■ システム開発計画、システム仕様の策定等、システム調達に係る対応 ■ システム開発計画に則った令和6年度システム開発プロジェクトの進捗・工程監理				
組織設計		■ 事業実施組織が社会との信頼関係を構築し、それを基盤とした事業運営ができるようにするために、先取りしてELSI上の課題・懸念を洗い出し、設計に反映させる ■ 事業実施組織全体にELSIの観点を浸透させる仕組みを検討し、具体化を進める ■ 患者・市民の視点を重視し、社会との対話を通してよりよく事業を進めるために、準備室による情報発信を支援するとともに、参加者パネルを中心とする患者・市民参画の取り組みの準備を進めていく				
総務		■ 事業実施組織の組織体制を決定（ガバナンス体制、部門体制、人員数等） ■ 事業実施組織設立に向けた事業計画を策定し、各種規程等を整備				
		■ 組織形態、予算規模に応じ、人員配置・必要人数を修正し、採用に向けた活動開始 ■ 専門人材育成の取組内容を検討				

第21回全ゲノム解析等の推進に関する専門委員会（R6年12月23日）資料より

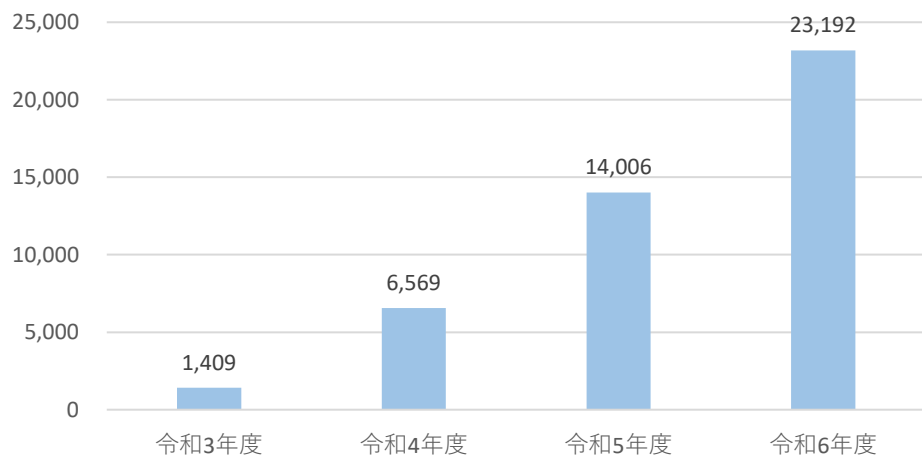
## 6NC共通電子カルテデータベース （6NC-EHRs）登録患者数



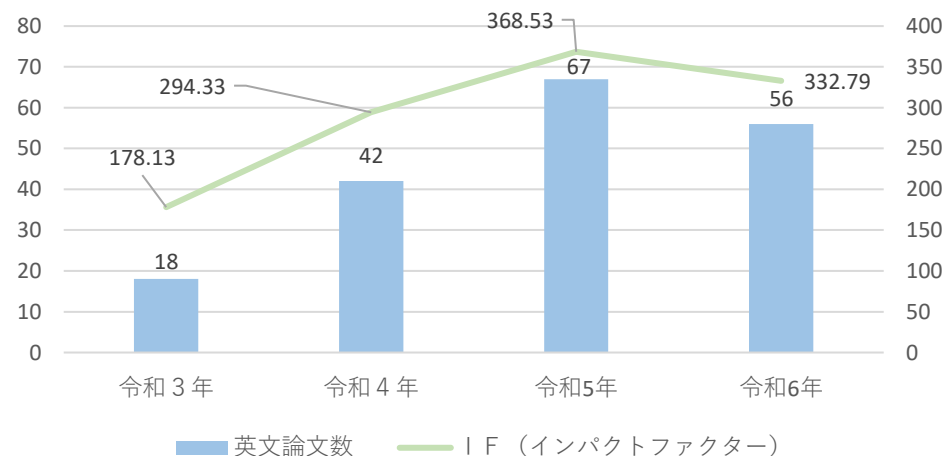
## JHホームページアクセス件数



## 6NC共通教育用コンテンツ総視聴者数



## 英文論文



## JH研究費を獲得した研究者が、その後代表として新規獲得した競争的研究費

